

## コレクションづくりの考え方と実際<本の世界の見せ方>

- 0 はじめに   ここでとりあげるのは主に市販されている一般書  
          児童書やコミック、雑誌などには直接にはふれない  
          ここでは生活圏にある図書館を想定している  
          選択と提供の違い  
          資料収集方針と現実の選書

### 1 図書館の「棚」が物語ること

#### 1 - 1  どんな選書がされているのか

蔵書の構築は選書が中心になる  
分野を担当制にする図書館があったりする  
選書する人が限られている図書館があったりする  
どんな選書がされていても、  
結果としての蔵書は、図書館としての集団的な行為によるもの

#### 1 - 2  図書館内での合意形成・意思決定

そこには図書館員の「本」をめぐる考えが広がっている  
貴重な本を大切にする  
評論が多く並ぶ  
ひたすら時代を追い求める  
かくあるべき姿を提示する  
などの傾向がみられる。  
その意思決定がどういう過程を経ているにしても、  
結果としての蔵書は、図書館としての集団的な行為によるもの

#### 1 - 3  図書館と地域との合意形成

そこには図書館員の「利用者像」が反映されている  
利用者との日常的な関係は反映されているか  
資料収集方針と選択基準  
「図書館の自由宣言」  
「公共性」を図書館はどのようにして保障するのか  
図書館の「公共性」とは何か、どう表現されるのか

## 1 - 4 「利用者を否定しない棚」

「よくわかる」はよくわかるか

「159 (人生論)」でみてみよう

「370 (教育書)」

「利用者を否定しない」と「迎合」、大衆論の問題

## 2 本の世界はどうなっているか

### 2 - 1 出版社からみると、入門書・概説書・専門書・実用書・啓蒙書・随筆 ・雑学・教科書・問題集・資格本

下手な鉄砲も数撃てば当る、から、ロングセラーまで

### 2 - 2 図書館からみると、

主題で分類

形態で分類

一般補助表

### 2 - 3 商業出版以外の資料

灰色文書と白書、と、パンフレット

地域資料、自費出版

## 3 本を選ぶ

### 3 - 1 本は仮説だ

学問的教理は「仮説」として受けとめる

利用者の「要求」「嗜好」を「選択」として受けとめる

### 3 - 2 仮説としての選書

「正解」を並べているのではない

知識の体系と認識の論理

### 3 - 3 仮説には選択枝がある

二者択一、三者択一、二項分析、……

### 3 - 4 選択枝の具体例

「陶芸」の場合 知識・鑑賞・作陶

「料理」の場合 食べたい・作りたい・儲けたい・見て楽しむ

「医療」の場合 治療する側・病気を知りたい・病気になってしまった

「株式」の場合 仕組みを知りたい・投資をしたい・株価を知りたい

「インテリア」の場合 見て楽しむ・知識を得る・活用したい

## 4 利用者についての想像力

### 4 - 1 階層化時代の利用者像 希望格差社会 都市と農村

可処分所得の問題、生活の「多様化」

「2極化する社会」という仮説 - どう2極化するのか

国際化と多文化する社会と日本語

### 4 - 2 予約からのフィールドバック 潜在的ニーズをいかにつかまえるのか

地域における「層 - 量」としてのニーズ

### 4 - 3 利用者を「量」として見る 対象とする利用世代を20年ごとに区切ってみれば

1960年生れ以前・60～80年生・80～00年生・00年生以降

## 5 選書をする図書館員としての私

### 5 - 1 図書館員であるまえに「私」がある

「私」の相対化

図書館員としての私は、N数の私、いろんなパンツをはいている

### 5 - 2 選書をする図書館員の身体と心、そして知識情報力

資料を知るための訓練

- ・出版社のPR雑誌を読む
  - ・雑誌の立ち読みをする マイナーな雑誌に注意をはらう
  - ・新書を毎月1冊、読む
  - ・気になる著者、いいなあとと思った著者の本はまとめて読み発想を学ぶ
  - ・中・高校生に人気のある本を読む
  - ・出版、出版社、編集者、書店についての本を読む
- などなど

## 6 本をどう並べるのか

### 6 - 1 NDCは数字が並んでいるだけじゃない

100 - 150 と 160 - 190 で分れる

### 6 - 2 配架の工夫

八広図書館の実践とその後の動向 主題分類と配架分類

### 6 - 3 分類変更で見せる

書店の魅力はあちこちに同じ本がある

書店の魅力は買われたら補充ができる

- 6 - 4 配置で見せる 書庫が開架になっただけではないか
  - 開架と閉架で見せる
  - 雑誌は雑誌架に並べるだけではない
  - 一般書と児童書の「混配」 高月町でのこころみ

## 7 おわりに

- 7 - 1 利用者と本（知識・情報）の関係をつくりだす役割
  - 仮説として読み、判断する読者・利用者
- 7 - 2 利用者の「欲望・欲求」を促すために「棚」はある
  - 「欲望・欲求」を「知的好奇心」につなげる
- 7 - 3 「楽しい貸出」に向けて
  - 「楽しい×分る」
  - 「楽しい×楽しくない」